

〈会津・漆の芸術祭 2011 関連企画〉

伊藤将和 展

生命の器 The vessel of LIFE

2011年10月22日(土) - 11月23日(水・祝)

開館時間 10:00~18:00 (最終入館は17:30まで) 水曜休館 (11月23日は開館)

観覧料 一般300(250)円、高・大学生200(150)円、小・中学生100(80)円

※() 20名以上の団体料金

主催 喜多方市美術館

協賛 会津・漆の芸術祭 2011 実行委員会

喜多方市美術館

Kitakata City Museum of Art

〒966-0094 福島県喜多方市字押切 2-2

Tel.0241-23-0404 Fax.0241-23-0406

<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/>

《生命の器 The vessel of LIFE》2011年 写真インスタレーション

伊藤将和展

生命の器

The vessel of LIFE



《星を受け止める為の器 円の為のオーマージュ》
2007年 インスタレーション「KINCO」(日本銀行旧本店)

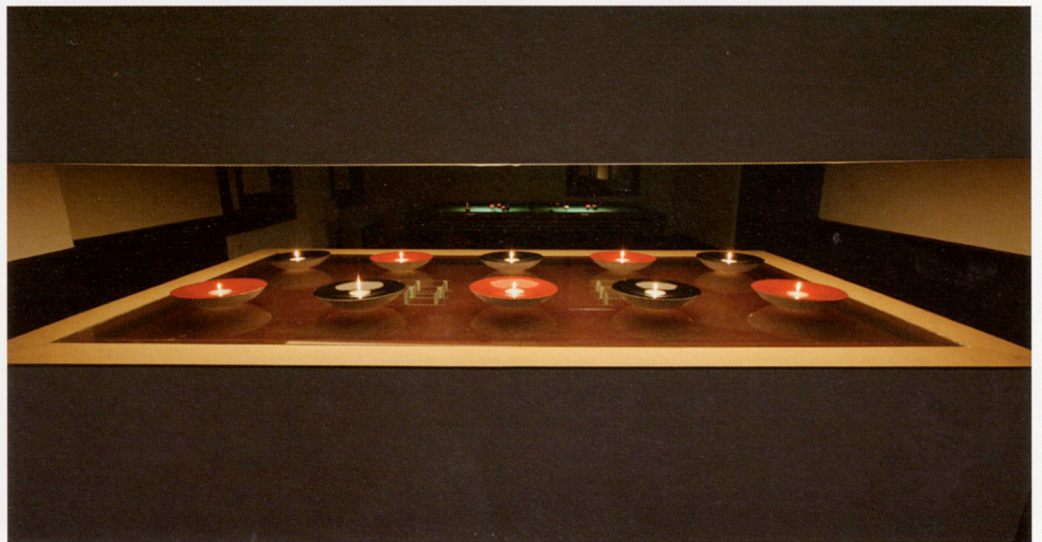


《イメージとしての器》2009年 油彩「サマーショー」(日本橋高島屋)

伊藤将和は、東京芸術大学にて油絵を学び、後に現代美術へとその表現を変化させる。常に自然と対峙しながら作品を制作し、目には見えない構造を顕在化させるを試みる。『円環』を重要なファクターとして制作された作品を見れば、円が紡ぎ出す形に永續の生命を見ているようだ。自然のマテリアルである火、水、星をモチーフとし、目には見えない形、言わば私たちを取り巻く環境に潜む構造を呼び起こす作業を続ける。昨年、漆との新たな素材と出会い、伊藤の作品は新たな展開を見せた。本展覧会は過去から現在まで伊藤が手がけた絵画、インスタレーション作品を一堂に展示する。伊藤が追い求める『円環』の先きに、蜃気楼のように立ち上がる新たな風景が見えてくる。

伊藤将和 (いとう・まさかず)

1977年、福島県西会津町生まれ。
2006年 東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程研究分野油画修了。博士号を取得する。
東京芸術大学坂口博敏研究室にて現代美術を学び、大学院修了後は、教育研究助手として同大学勤務する。
在学中より木材、ガラス、蠟燭を素材としてインスタレーション作品を多数発表。自然の素材を作品の主体として表現する。
主な展覧会に、「はじめる視点」(福島県立博物館2009年)、「会津・漆の芸術祭」(会津若松市2010年)「KINCO」(日本銀行旧本店2008年)などがある。
現在上越教育大学美術コースにて講師を勤める。



《灯火の器 -漆-》2010年 インスタレーション「会津・漆の芸術祭2010」(会津若松市)

《関連プログラム》

伊藤将和 アーティスト・トーク
11月3日(木・祝) 14:00~15:30
アーティストが出品作品のコンセプトや
展覧会のテーマについて語ります。

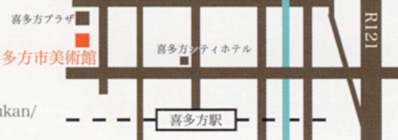
喜多方市美術館

Kitakata City Museum of Art

〒966-0094 福島県喜多方市字押切 2-2

Tel.0241-23-0404 Fax.0241-23-0406

<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/>



J R 喜多方駅から 約1.5km 徒歩20分
タクシー5分
磐越自動車道会津若松 I C から
約19km 車で20分
磐越自動車道会津坂下 I C から
約20km 車で20分